

高齢発症のうつ病における形態および機能画像の異常と治療抵抗性の関係に関する研究

1. 研究の対象

2018年10月から2023年9月までに当院精神科病棟に入院し、入院時にうつ病と診断された患者さん

2. 研究の期間

研究倫理審査委員会承認後～2024年12月31日

3. 研究目的および意義

高齢発症のうつ病ではレビー小体病（パーキンソン病やレビー小体型認知症）が背景にあることがあると言われており、また、レビー小体病に合併するうつ病は薬物療法に抵抗性で電気けいれん療法などの薬物療法以外の治療が必要になることも多いことも知られています。レビー小体病の発症の前にうつ病を発症することが多いことも知られており、レビー小体病の発症の原因となる脳細胞の変化によって発症しているうつ病であるため、レビー小体病の発症前のうつ病に関しても、通常のうつ病より治療抵抗性である可能性が高いことが予想されます。一方、レビー小体病の発症前から神経細胞の変化

による脳内の神経伝達物質（ドパミン、ノルアドレナリン）の機能異常があると言われており、それらの異常は脳の機能画像検査（DAT-SPECT、MIBG 心筋シンチグラフィ）で検出できるとされています。

そこで、今回の研究では、これらの機能画像検査の結果と実際にうつ病に対して選択された治療の方法との関連性を調査し、高齢発症のうつ病に対してどのような画像検査を実施すれば、より早期に電気けいれん療法を含めた適切な治療選択が可能になるのかについて調査します。

4. 研究の方法

指定の期間に入院された患者様について、入院カルテを参照し、入院の時点でうつ病と診断された患者様を特定し、そのカルテ内容を確認し、症状と心理検査の結果、画像検査（MRI、脳血流 SPECT、DAT-SPECT、MIBG 心筋シンチグラフィ）の結果、有効であった治療方法（①抗うつ薬のみ、②抗うつ薬のみ以外の薬物療法、③電気けいれん療法）、退院時の診断について確認し、結果を分析します。

5. 研究に用いる試料・情報の種類

患者さんの年齢、性別、診断、心理検査および画像検査の結果、治療方法、入院時および退院時診断についての情報

6. 研究組織

東京都健康長寿医療センター 精神科 松井 仁美（研究責任者）

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。しかしながら、すでに研究に使用されていた場合には、結果の削除など十分なお対応ができない場合がありますことをご了承ください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号

東京都健康長寿医療センター

精神科 松井 仁美（研究責任者）

電話 03-3964-1141（平日 9：00～17：00）